

## ▼エドレルミズ錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 アナモレリン塩酸塩 Anamorelin Hydrochloride 【分類】 がん悪液質治療薬 [グレリン様作用薬]

【単位】 ▼50mg/錠

【常用量】 1日1回100mg

【用法】 1日1回, 空腹時 [服用後1時間は食事をしない]

■体重増加又は食欲改善が認められない場合, 投与開始3週後を目途に原則中止

■試験時は朝食前に設定

【透析患者への投与方法】 PKは腎機能低下の影響を受けない (1)

【保存期 CKD患者への投与方法】 PKは腎機能低下の影響を受けない (1)

【特徴】 低分子グレリン様作用薬を有する選択的GHSR-1aのアゴニスト。体重減少及び食欲不振を認めるがん悪液質の改善に適用。成長ホルモン (GH) 放出促進因子受容体タイプ1a (GHS-R1a) 刺激を介したGH分泌促進作用, 食欲亢進作用を期待。通常, PS 0-2の予後4か月以上の例に対して適用。

【主な副作用・毒性】 心電図異常, 高血糖, 肝機能障害, 消化器症状, 高血圧, 皮膚症状など

【安全性に関する情報】 Naチャンネル阻害作用があるので, 心刺激伝導系に影響するおそれがある (1) 肝から分泌されるインスリン様成長因子 (IGF) -1による腫瘍増大の可能性はあるが, 検証の結果否定的のようである (Northrup R, et al: Support Care Cancer 2013 PMID: 23579947)

【吸収】 食後に服用すると吸収率が半分以下 (1/4程度) になる (1)

【F】 37% (1)

【tmax】 0.75~2hr (1)

【代謝】 CYP3A4で代謝 (1) 代謝物の一部には活性はあるが, 生成率はわずか (1)

【排泄】 尿中未変化体排泄率1%, 尿中回収率7~8% [po] (1) P-gpおよびOATP1B3の基質 (1)

【CL/F】 55.5±23.5L/hr (1)

【t1/2】 8.8hr (1) 7hrで生体グレリンの0.5hrより長い (Zhang H, et al: Expert Opin Pharmacother 2015 PMID: 25945893)

【蛋白結合率】 97~98% [主にAAG] (1)

【Vd/F】 583.88±186.04L/body (1)

【MW】 583.16

【透析性】 データなし (1) 除去されないと思われる (1)

【O/W係数】 2.98 [1-オクタノール/水] (1)

【相互作用】 強いCYP3A4阻害薬との併用禁忌 (1) ケトコナゾール併用でAUC3倍 (Zhang H, et al: Expert Opin Pharmacother 2015 PMID: 25945893)

【肝障害患者への投与方法】

【小児CKD患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】

【備考】 生存期間の延長データなし。グレリンは食欲亢進作用をもつペプチドホルモンで, 成長ホルモン分泌促進因子受容体 (GHS-R1a) の内因性リガンド。グレリンはペプチドで半減期も短いため, 本剤が開発された。

【更新日】 20240814

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。